

第44回日本臨床運動療法学会学術集会

鹿児島市立病院リハビリテーション部 鶴川俊洋

第44回日本臨床運動療法学会学術集会（会長：順天堂大学大学院代謝内分泌内科学 田村好史教授）が、2025年9月13～14日に順天堂大学第3教育棟で「全世代における健康増進を目指した運動療法の役割」をメインテーマとして開催されました。

田村会長は会長講演・関連講演において専門分野の糖尿病のみならず、近年の女性の痩せ問題などこれまでの「健康寿命延伸」の研究成果を報告され、後藤葉一理事長講演「臨床運動療法学の深化と運動療法の普及をめざして」では学会が掲げるミッションが提示されました。シンポジウムなどでは、腫瘍循環器領域の運動療法や運動時の脳血流のモニタリングに関する講演に多くの聴講者が参加され、活発な質疑応答が展開されました。一般演題を含め合計106演題は過去最多の登録数であり、261名の現地参加者の多くが最後の優秀演題講演まで聴講していました。本学会は内科系医師と健康運動指導士を中心として発展し、研究会から学会に組織改編され10年が経ちましたが、会員数



田村好史会長の開会挨拶



学術集会立って看板

約240名の小規模学会であり、今後リハビリテーション科医として連携を図るべき学会と思います。

次回（会長：昭和医科大学循環器内科学 木庭新治教授）は2026年9月5～6日に上條記念館（東京都品川区）で開催されます。医学会会員の皆様のご参加をお待ちしております。

第12回日本ボツリヌス治療学会学術大会

昭和医科大学藤が丘病院リハビリテーション科 正岡智和

2025年9月20～21日に第12回日本ボツリヌス治療学会学術大会が東京都千代田区の学術総合センターにある一橋大学一橋講堂にて開催された。今回は仁生会細木病院耳鼻咽喉科/こえと嚥下のセンターの兵頭正光先生が大会長であり耳鼻咽喉科医として初めて務められるとのことであった。眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、歯科、小児科などシンポジウムや教育講演で発表される先生方のバックグラウンドは多岐にわたっており、リハビリテーション科医としての視点とは異なるボツリヌス治療の新たな知見を得ることができた。特に今回は痙攣性発声障害に対するボツリヌス治療に関して兵頭先生の会長講演もあり、リハビリテーション科医としても関わる必要がある分野であると感じた。リハビリテーション科医として日常的な痙攣に対する治療以外にも発声障害や神経因性膀胱へのアプローチ方法を知ることは研究や臨床の幅を広げるうえでも有用であり、若い先生方にもお勧めしたい学術集



秋桜と製剤をあしらった抄録 学術大会立って看板と筆者

会のひとつである。兵頭先生もボツリヌス治療に関わる多くの分野の専門家が集い意見を交換する貴重な場であるとおっしゃっており、また新たな適応拡大に向けた取り組みなど、さらなる発展を目指す上でも重要な位置づけにある学術集会である。来年以降の盛会も期待したい。